

議したことからわかるように、この集會は最先端の予報技術について深く掘り下げて話し合う目的の集會ではなかった。また、training seminar でもなかった。

参加各国の予報技術や利用できる気象観測機器、通信手段、電子計算機などのレベルが国によってかなり異なるため、各国が直面している課題に大きな違いがみられた。一般に先進国では最新の設備を用いていかに予報技術を向上させるかが強い関心事であったが、発展途上国では同地域内の RMC から数値予報結果の格子点値を送ってほしいとか、観測・通信網や計算機の整備・向上や training course の必要性など、より基本的で切実な問題点が指摘された。このため、質疑応答やパネル・デ

ィスカッションにおいて議論がかみ合わないことが時々みられた。ディスカッションの報告では、いろんな国の雑多な意見が調整され、とりまとめられた。

このようにやや総花的で徹底さに欠けた集會ではあったが、この種の技術集會がたまにしか開催されない実情を考えれば、ある程度止むを得ないだろう。また、浅いながら予報技術に関する最新の知識に触れることができ、有意義な集會であった。集會の運営にあたってホスト役を熱意をもって勤められた中国国家気象局の方々の努力もあって、充実した5日間を過ごすことができたことを、最後に触れておきたい。

日本気象学会誌 気象集誌

第 II 輯 第 61 卷 第 6 号 1983 年 12 月

目次

- 松田佳久：流体現象における臨界点の分類とその気象力学への応用
- 余田成男・向川 均：表面地形がある場合の傾圧帯状流の不安定性
- 田中 浩：粘性とニュートン冷却の存在下での成層圏乱流層の厚さ
- 金光正郎・多田一正・工藤達雄・佐藤信夫・伊佐真好：JMA・スペクトルモデルについて
- 岸保勘三郎・工藤 恵：夏季北半球における非軸対称高度場のテレコネクション
- Fu-Cheng Zhu：南シナ海域における積雲対流活動と寒気南下との相互作用
- 木村富士男・荒川正一：関東地方の下層ジェットの数値シミュレーション
- 木村富士男：局地風と光化学大気汚染の数値シミュレーション第1報 2次元の海陸風の場合
- 山内 恭：南極みずほ基地における入射太陽光と雪面のアルベードの太陽天頂角や雲による変化
- 野田 彰・時岡達志：エントロピー交換率極小の気象
- K.C. Mathpal・N.C. Varshneya：有限のディメンションをもつ雷雲による地上の電場

要報と質疑

- 加藤内蔵進：暖い海面上に寒気が吹出す時の大気中の加熱率と水蒸気増加率の計算への鉛直分解能と地上風の取扱いの影響